

令和 5 年 6 月 16 日現在

機関番号：31201

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2019～2021

課題番号：19H01704

研究課題名(和文) 東日本大震災後に誕生した子どもとその家庭への縦断的支援研究

研究課題名(英文) A Longitudinal Study of Support for Children Born After the Disaster and their Families.

研究代表者

八木 淳子 (YAGI, Junko)

岩手医科大学・医学部・教授

研究者番号：80636035

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 9,400,000円

研究成果の概要(和文)：東日本大震災後1年間に誕生し岩手・宮城・福島の甚大被害地域で育つ子どもと保護者223組の協力を得て、子どもの認知発達・行動上の問題、母親の精神健康の実態とそれらの関連を調査したコホート研究(2016-2018)を基盤とし2019年より4年間の追跡調査を行った。ベースライン調査で観察された子どもの認知・語彙発達の遅れや母親の精神医学的問題は7年の経過でいずれも改善傾向にあるが、子どもの行動上の問題・精神健康と母親の精神健康の問題は相互に関連しながら経過し、回復にはソーシャルキャピタルの役割が重要であった。ハイリスク児・家庭には学校や相談機関・医療機関等との連携による長期的支援継続が必要である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

大震災後1年間に被災地に誕生した子どもの発達や精神健康の問題と保護者の精神健康の関連について本邦ではじめて明らかにし、被災の影響によると考えられる子どもの行動・精神健康の問題の遷延は、母親の小児期逆境体験や精神健康の問題と相互に関連しながら長期にわたり継続することが示された。大災害後には、直接被災した子どもだけでなく、震災後に生まれた子どもとその家庭にも長期的な発達支援・養育支援の継続を要することが示された。

研究成果の概要(英文)：Based on a cohort study (2016-2018) that investigated children's cognitive developmental and behavioral problems and mothers' mental health and their associations, with the cooperation of 223 pairs of children and their parents who were born one year after the Great East Japan Earthquake and raised in the severely affected areas of Iwate, Miyagi, and Fukushima, we conducted a 4-year follow-up study that began in 2019.

While both children's cognitive and vocabulary developmental delays and maternal psychiatric problems observed in the baseline study showed improvement over the course of 7 years, children's behavioral problems/mental health and maternal mental health problems passed in an interrelated manner, and the role of social capital was important in recovery.

High-risk children and families need continued long-term support through collaboration with schools, counseling agencies, and medical institutions.

研究分野：児童精神医学

キーワード：東日本大震災 ト라우マ 母子メンタルヘルス 早期発見・早期支援 発達障害 ソーシャルキャピタル ACE PTSD

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

世界各地で起こっている大災害が子どものメンタルヘルスに及ぼす影響に関して、インド洋大津波(2004)やハリケーンカトリーナ(2005)、四川大地震(2008)などにおいて報告されている。それらの多くは発災後数カ月から数年以内に実施された横断的調査かつ PTSD 発症に関するものであり、これまでに、(1)大災害による深刻なトラウマに暴露した子どもや青年は、後に慢性的な PTSD や長期的なうつ症状を呈することが多い、(2)トラウマ焦点化認知行動療法は、子どもの PTSD の症状を緩和させ、他の疾患への移行や重篤化を防ぐ効果がある、(3)学校での介入は特に効果的である、(4)被災前から脆弱な家族は、被災後さらに深刻な影響を受け続けるリスクが高い、等が明らかにされている(Geonjian, et al., 2005)。

本研究のように、子どもの発達と精神健康に焦点を当て災害後縦断的に追跡した報告は稀少であり、保護者の精神医学的評価を組み入れた研究はほとんどない。

申請者(児童精神科医)らは、発災後の診療や保健活動を継続する中で、「震災後に誕生した子ども達は顕著に落ち着きがない」という地域の支援者の声を、発災から5年目に被災地各地で頻繁に耳にするようになり、実態を把握して有効な支援を行うための学術的研究推進の必要性を痛感した。2015年秋に岩手・宮城・福島県の甚大被災地域を対象として「東日本大震災後に誕生した子どもとその家庭への縦断的支援研究」の調査を開始し、翌2016年には基盤研究(C)にも採択され、3県で223名の子どもとその保護者に協力を得て調査を継続してきた。今後約9年間(全体で12年)にわたり縦断的に追跡調査を実施し、どのような支援がどのように奏功するかを検証していく。

2. 研究の目的

本研究の目的は、東日本大震災発生後に誕生した子どもたちを対象として、子どもたちの心理的発達や精神健康、社会適応状態を把握し、ハイリスクな状態にある子どもたちに多層かつ専門的な支援を実施することである。子どもたちだけでなく、保護者や学校(担任・養護教諭等)にも協力を得つつ、効果的な介入方法を開発し、子どもたちの発達支援を行う。さらに長期的な支援を実施し、縦断的に子どもたちやその家族の変容を評価し、どのような子どもたちに、どのような支援が効果的なのかを明確にする。約12年程度、未就学児が中学卒業時まで(本研究では対象児が8-11歳までの4年間)、ハイリスク児に対する支援と介入を継続し、縦断的追跡研究で得られたデータから、有用なエビデンスを抽出するのが本研究のもう一つの目的である。

本研究の核心となり、解明すべき「問い」は以下の4点に集約される。

- (1)東日本大震災後に誕生し直接被災していない子ども達はどのように発達していくのか?
- (2)治療的介入・支援を受けた子どもやその保護者はどのようにリカバリーするのか?
- (3)リカバリーのための最善の介入や支援とは何か?
- (4)災害の多い日本で、我々はどのような準備をしたらよいのか?

3. 研究の方法

(1) 2019年度の計画

【対象者】被災地である岩手・宮城・福島3県の小学2年生(223名)とその保護者(リクルート済み。中学校卒業の15歳時点までの研究協力の同意を得ている。)

【調査内容】

- ・子どもに対して：言語発達検査（PVT-R）、実行機能検査、MINI-KID（精神疾患評価）
- ・保護者に対して：CBCL・SDQによる子どもの行動と情緒の問題の評価
 母親自身のメンタルヘルスの評価（BDI-、K6などの心理尺度）
 構造化面接（MINI；精神疾患の評価）
- ・教師に対して：対象児・ハイリスク児に対する発達・行動と情緒の問題の評価
 新たに支援・介入を要するハイリスク児を同定
 これらの調査を可能とするために、3県の研究責任者らが各市町村の教育委員会に対し、研究趣旨の説明と研究協力依頼をすでに実施済み。
- ・子どもへの治療的介入・親子への支援について：ハイリスクな子どもに対しては、定期的な医療受診や専門機関への通所により医療的観察を徹底する。定期的な学校訪問により担任および管理職との情報共有を密にしつつ、教職員らへの啓発を図り、学校および地域との密接な協力関係構築を実現していく。
- ・保護者のメンタルヘルスについて：構造化面接により何らかの精神疾患の徴候を示す保護者には、適切な医療的措置や支援を提供する（下図）。さらに保護者のメンタルヘルスの改善と子どもの認知発達や行動上の問題の関連の検証を行う。

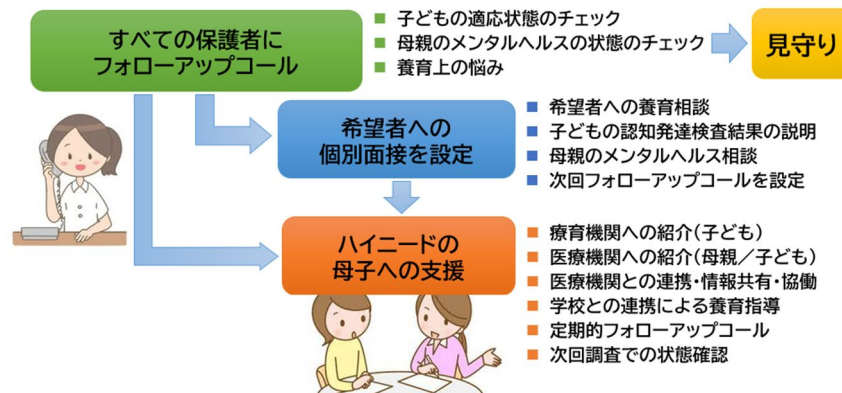


図1. フォローアップの流れ

- ・分析とその方向性：予備調査、ベースライン調査の結果を踏まえ、子どもの認知発達や保護者のメンタルヘルスに焦点化して介入効果を検証する。その結果を積極的にフィードバックし、ハイリスクな児童、保護者に対して必要かつタイムリーな支援を確実に提供する。
- ・地域および学校との連携と協働に向けて：ハイリスクであってもまだ支援が提供されていないケースも相当数存在すると見込まれ、彼らにも治療や支援を提供するため、コホート基盤の拡大も視野に、教育や福祉・行政との協働、アウトリーチを予定する。

（2）2020 - 2021 年度の研究計画

本研究は 2027 年まで計画されており、調査項目・基本的手法は研究方法（1）と同様とする（定期調査項目に加えて、隔年で WISC- などの子どもの知的発達検査を追加実施）。コホート基盤の維持とアンケート調査の継続、得られた知見を広く社会に発信し情報を共通する。

4. 研究成果

ベースライン調査では、子どもの認知や語彙の発達に概ね半年程度の遅れが出ている可能性が示唆され、行動や情緒の問題が臨床域にある子どもの割合は、この年代の一般的な割合よりも有意に高かった。母親のメンタルヘルスの問題も依然とし深刻であり、MINI の結果と子どもの



2017年4月23日
 <毎日新聞>
 本研究のベースライン調査の結果（母親のメンタルヘルスの深刻さ、子どもの認知発達遅れ、行動上の問題）が取り上げられた。

語彙発達に関連があることや、母親の抑うつ程度と子どもの行動・情緒の問題が関連することも示唆されていた。これらの結果は公表することに新聞等で取りあげられた（写真）。

その後の追跡調査では、子どもの認知発達のキャッチアップ、行動と情緒の問題の緩徐な改善が認められる一方で、保護者の精神健康の回復の遅れが目立った。これらの成果は「被災地の子どもへのケア」(中央法規出版:2018年11月30日発行)として発表された。

本研究での4年間（コロナ禍の休止を含み調査開始から計7年間）の追跡調査においては、子どもの認知発達のさらなる改善が観察され、子どもの行動上の問題

と保護者の精神健康の有意な関連、ソーシャルキャピタルが保護者の精神健康を支えること、保護者のトラウマ関連症状の遷延と数年後の子どもの行動上の問題との有意な関連などが明らかになった。保護者の呈するトラウマ症状に関しては、臨床群の症状が高止まりして2021年まで持続している群が1割程度存在した。保護者の小児期逆境体験と精神健康、子どもの行動上と精神健康の関連をみたパス解析では、双方の問題が時間の経過とともに相互に関連影響し合い変化していくことが示された（八木ら、2022）。

調査開始から7年目の捕捉率は70%以上を維持しており、丁寧なフォローアップの継続と確実な支援の実施が長期にわたるコホート基盤の維持に寄与していると考えられる。初年度は40%の家庭が「要支援」基準に該当したが、その割合は年を追うごとに縮小してきている。毎年の定期フォローアップに加えて、2019年には「子育て応援キャラバン（ペアレンティングスキル醸成）」、2020年には「コロナ禍アンケート（子どもの生活変化や精神健康の調査、養育相談）」、2022年度には「子育て相談会（子どもの発達や精神健康について相談、養育指導）」を実施し、研究参加の子どもとその家庭への継続的支援の充実を図った。最終年度には、「成果報告シンポジウム」を三重県で開催し、本研究で得られた知見を将来起こりうる「南海トラフ地震」への備えとして周知することに努め、地域の参加者とのディスカッションでは、震災後長期的視野での子どもへのケアの要点への関心の高さがうかがわれた。

2020年から3年に亘り続いたCOVID-19パンデミックにおいては、研究開始当初には予定されていなかった特別アンケート（前述のコロナ禍アンケート）を計画・実施し、被災地の子どもの不安の増大、母子分離不安やゲーム時間の延長などが観察された（千葉ら、2023）。

「コロナ禍」もCBRNE災害の一つとみなされることを踏まえると、様々な先行研究で示されてきたように、以前の逆境的体験（この場合、東日本大震災後の非常事態下の生育環境）の存在が、その後のトラウマティックイベント（同、コロナ禍）への反応性に影響した可能性が示唆され、東日本大震災後に続くコロナ禍をまたいで継続された本研究により、さらに意義深い成果が生み出されたと考えられる。この後、本研究はさらに5年間の継続を予定しており、さらなる精緻な解析を行い、コロナ禍を含めた被災地の子どもとその家族の精神健康の軌跡を追うとともに、自然災害が頻発する我が国において、大災害後長期的視野からの有効な支援・介入の在り方を明らかにすることを目指していく（図2）。

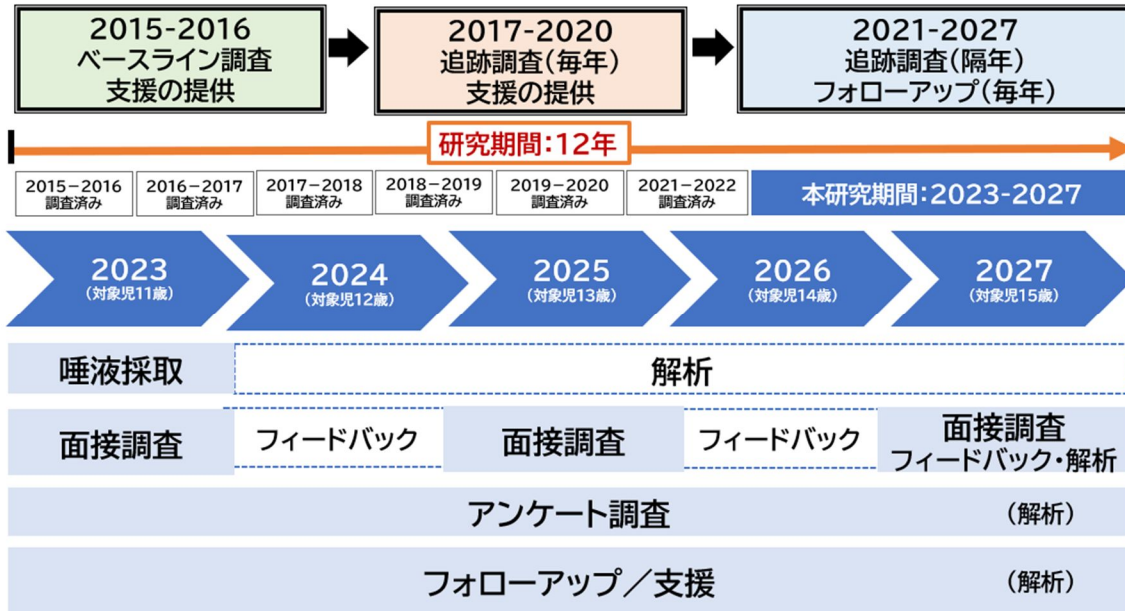


図2. 研究の流れ

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計59件（うち査読付論文 15件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 八木淳子	4. 巻 127(2)
2. 論文標題 子どものこころを多角的に診て多面的に支える 傷つきと行きづらさを抱える子どもの理解 トraumインフォームドの視点から	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本小児科学会雑誌	6. 最初と最後の頁 165
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 福地 成	4. 巻 42(2)
2. 論文標題 災害後に生じる長期的なストレスとその影響について.	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 精神科	6. 最初と最後の頁 282-287
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 福地 成, 赤坂美幸, 小林穂高.	4. 巻 31(4)
2. 論文標題 緊急事態のときに子どもを支えるために～自然災害、コロナ禍から戦禍まで～.	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 子どもの心とからだ	6. 最初と最後の頁 545-547
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 成本忠正, 松浦直己.	4. 巻 71
2. 論文標題 ADHD児における視覚イメージの保持能力.	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 教育心理学研究	6. 最初と最後の頁 13-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5926/jjep.71.13	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Koyama Y, Fujiwara T, Yagi J, Mashiko H, Great East Japan Earthquake Follow-up for Children Study Team.	4. 巻 296
2. 論文標題 Association of parental dissatisfaction and perceived inequality of post-disaster recovery process with child mental health.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Soc Sci Med.	6. 最初と最後の頁 114723
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.socscimed.2022.114723.	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Koyama Y, Fujiwara T, Doi S, Isumi A, Morita A, Matsuyama Y, Tani Y, Nawa N, Mashiko H, Yagi J, the Great East Japan Earthquake Follow-up study for Children (GEJE-FC) team. Journal of Psychiatric Research.	4. 巻 151
2. 論文標題 Heart rate variability in 2014 predicted delayed onset of internalizing problems in 2015 among children affected by the 2011 Great East Japan Earthquake.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Psychiatric Research.	6. 最初と最後の頁 642-648
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jpsychires.2022.05.039	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 八木 淳子, 榎屋 二郎, 福地 成, 吉岡 靖史, 松浦 直己	4. 巻 124(1)
2. 論文標題 【育てと育ちの精神医学-困難な育児・逆境における育ちの支えII-】東日本大震災後に誕生した子どもとその家庭への縦断的支援研究 ベースライン調査,第1回・第2回追跡調査の結果から	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 精神神経学雑誌	6. 最初と最後の頁 36-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 八木淳子	4. 巻 62(1)
2. 論文標題 トラウマの影響を受けて育つということ 被災地研究と臨床での出会いから	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 小児の精神と神経	6. 最初と最後の頁 13-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24782/jsppn.62.1_13	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 八木淳子	4. 巻 (39)
2. 論文標題 【逆境体験とそだち】逆境体験とは何か(総論)逆境体験とは何か	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 そだちの科学	6. 最初と最後の頁 10-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 八木淳子	4. 巻 44(1)
2. 論文標題 被災地で育つということ - 東日本大震災後10年間の臨床と研究からみえる子どもの育ち.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 死の臨床76.	6. 最初と最後の頁 58-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 八木淳子, 榎屋二郎, 福地 成, 吉岡靖史, 松浦直己.	4. 巻 124(1)
2. 論文標題 東日本大震災後に誕生した子どもとその家庭への縦断的支援研究 - ベースライン調査, 第1回・第2回追跡調査の結果から - .	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 精神神経学雑誌.	6. 最初と最後の頁 36-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 榎屋二郎	4. 巻 221
2. 論文標題 解離に出会うとき 臨床の現場から 被災地支援の現場から解離を考える	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 こころの科学	6. 最初と最後の頁 103-108
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Toyoshima K, Inoue T, Shimura A, Masuya J, Fujimura Y, Higashi S, Kusumi I.	4. 巻 17(3)
2. 論文標題 Cognitive complaints mediate childhood parental bonding influence on presenteeism.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 PLoS One.	6. 最初と最後の頁 e0266226
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0266226.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hashimoto S, Ichiki M, Ishii Y, Morishita C, Shimura A, Kusumi I, Inoue T, Masuya J.	4. 巻 15
2. 論文標題 Victimization in Childhood Influences Presenteeism in Adulthood via Mediation by Neuroticism and Perceived Job Stressors.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Neuropsychiatr Dis Treat.	6. 最初と最後の頁 265-274
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2147/NDT.S343844.	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ishii Y, Masuya J, Morishita C, Higashiyama M, Inoue T, Ichiki M.	4. 巻 17
2. 論文標題 Victimization in Childhood Mediates the Association Between Parenting Quality, Stressful Life Events, and Depression in Adulthood.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Neuropsychiatry Dis Treat.	6. 最初と最後の頁 3171-3182
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2147/NDT.S323592.	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Naru Fukuchi, Eugen Koh.	4. 巻 38(2)
2. 論文標題 Children's survivor guilt after the Great East Japan Earthquake and tsunami: A case report.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Educational Psychology in Practice.	6. 最初と最後の頁 115-124
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/02667363.	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福地 成, 千葉 柊作, 片柳 光昭, 小原 聡子, 白澤 英勝	4. 巻 124(2)
2. 論文標題 大災害後のコミュニティ支援に何が必要なのか みやぎ心のケアセンターの活動分析からみえること	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 精神神経学雑誌	6. 最初と最後の頁 839-848
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Naru Fukuchi , Shusaku Chiba .	4. 巻 19(17)
2. 論文標題 Utilization of mental health care systems in the aftermath of disasters in Japan: Statistical data of the Miyagi Disaster Mental Health Care Center.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 International Journal of Environmental Research and Public Health	6. 最初と最後の頁 10856
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/ijerph191710856	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松浦 直己, 石谷 禎孝 .	4. 巻 31(2)
2. 論文標題 【COVID-19対応で変わる社会と精神医療】ポストコロナの学校教育 .	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本社会精神医学会雑誌	6. 最初と最後の頁 163-169
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 八木 淳子, 榎屋 二郎, 福地 成, 松浦 直己 .	4. 巻 62(4)
2. 論文標題 児童青年領域におけるレジストリの構築 「みちのくこどもコホート」研究がめざすもの 東日本大震災被災地での長期的観察と支援の意義	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 児童青年精神医学とその近接領域	6. 最初と最後の頁 583-591
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 八木淳子	4. 巻 19(2)
2. 論文標題 【東日本大震災: 発災からの10年を振り返る】子どもの被災と支援 東日本大震災から10年を振り返って	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 トラウマティック・ストレス	6. 最初と最後の頁 132-141
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 前田 正治, 松本 和紀, 八木 淳子, 高橋 晶	4. 巻 19(2)
2. 論文標題 【東日本大震災: 発災からの10年を振り返る】東日本大震災から10年、支援者として走り続けた経験から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 トラウマティック・ストレス	6. 最初と最後の頁 159-166
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 八木淳子	4. 巻 36(6)
2. 論文標題 【児童・思春期の精神医療・リエゾン領域におけるトランジション-成人医療への移行の課題-】トラウマ関連障害のトランジション(移行支援)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 精神科治療学	6. 最初と最後の頁 669-673
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉岡靖史, 八木淳子, 内出希.	4. 巻 61(2)
2. 論文標題 東日本大震災後に児童精神科受診に至った子どもの特徴 岩手県沿岸地域における受診児と非受診児の比較検討.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 小児の精神と神経.	6. 最初と最後の頁 101-109
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24782/jsppn.61.2_101	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 八木淳子	4. 巻 63(2)
2. 論文標題 【いじめと精神医学】いじめ被害を受けた児童思春期の子どもへのケア	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 精神医学	6. 最初と最後の頁 219-227
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11477/mf.1405206279	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 榎屋 二郎	4. 巻 61(3)
2. 論文標題 発達障害の二次的・三次的障害を防ぐために ト라우マとの関係を見つめなおす	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 小児の精神と神経	6. 最初と最後の頁 167-176
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24782/jsppn.61.3_167	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 榎屋二郎	4. 巻 2021特別号
2. 論文標題 コロナ禍での自殺の増加について コロナ禍における日本の子どもと青年の自殺について	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 精神神経学雑誌	6. 最初と最後の頁 S538
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井義隆, 榎屋二郎, 井上 猛.	4. 巻 79(1)
2. 論文標題 成人期の抑うつ症状に及ぼす幼少期の虐待の複数要因の複合効果 (Complex Effect of Multiple Factors of Victimization in Childhood on Depressive Symptoms in Adulthood)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東京医科大学雑誌	6. 最初と最後の頁 87-88
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福地 成, 千葉柊作, 瀬戸萌, 星野崇啓, 村井麻子.	4. 巻 61(3)
2. 論文標題 東日本大震災被災地の親子を対象としたキャンプの試み.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 小児の精神と神経	6. 最初と最後の頁 247-253
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24782/jsppn.61.3_247	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福地 成.	4. 巻 41(10)
2. 論文標題 【COVID-19流行下の生活と子どものこころ-小児・思春期のうつ・気分障害を考える-】小児・思春期のうつ・気分障害の長期フォロー体制と予後	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Progress in Medicine	6. 最初と最後の頁 1003-1006
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福地 成.	4. 巻 61(3)
2. 論文標題 発達障害と自然災害支援 みんなが安全な避難生活を送るために必要なこと	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 小児の精神と神経	6. 最初と最後の頁 231-233
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24782/jsppn.61.3_231	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福地 成, 小林 穂高, 北山 真次.	4. 巻 29(4)
2. 論文標題 日本における新型コロナウイルス感染拡大が子どもたちの心身に及ぼしたさまざまな影響	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本小児心身医学会災害対策委員会 子ども的心とからだ	6. 最初と最後の頁 438-440
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松浦 直己 .	4. 巻 61(3)
2. 論文標題 発達障害の三次的障害としての非行を考える アセスメント、予防、支援 .	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 小児の精神と神経	6. 最初と最後の頁 215-218
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24782/jsppn.61.3_215	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松浦 直己 .	4. 巻 松浦 直己
2. 論文標題 【子どもの成長過程に現れる心と体の問題】認知の歪み 被害的な見方をする子 .	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 チャイルド ヘルス	6. 最初と最後の頁 761-764
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34433/J03252.	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 八木 淳子	4. 巻 (34)
2. 論文標題 大災害後中長期の子どものこころのケア 多層的ケアシステムの構築と専門治療	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 北海道児童青年精神保健学会誌	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ono S, Yagi J, Fukumoto K, Yoshioka Y, Otsuka K.	4. 巻 72(4)
2. 論文標題 Factors related to long-term outcomes of children's behavior problems after the Great East Japan Earthquake and Tsunami - Follow-up survey in Iwate Prefecture - .	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Iwate Medical Association .	6. 最初と最後の頁 157-170
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 八木淳子	4. 巻 35(増刊号)
2. 論文標題 【児童・青年期の精神疾患治療ハンドブック】分離不安症 分離不安症	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 精神科治療学	6. 最初と最後の頁 220-223
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 八木淳子	4. 巻 18(1)
2. 論文標題 【発達障害とトラウマ関連障害の架け橋-「見分ける」から「みてる」へ-】大災害後の長期経過で顕在化する子どものトラウマと発達に関する複雑な問題の実相	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 トラウマティック・ストレス	6. 最初と最後の頁 38-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大類 真嗣、堤 明純、田中 英三郎、前田 正治、八木 淳子、近藤 克則、野村 恭子、伊藤 弘人、大平 哲也、井上 彰臣	4. 巻 67
2. 論文標題 災害時のメンタルヘルスと自殺予防	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本公衆衛生雑誌	6. 最初と最後の頁 101 ~ 110
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11236/jph.67.2_101	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Toyoshima K, Inoue T, Masuya J, Fujimura Y, Higashi S, Tanabe H, Kusumi I.	4. 巻 (10)
2. 論文標題 Structural equation modeling approach to explore the influence of childhood maltreatment in adults.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 PLoS One	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0266226	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 榎屋 二郎, 八木 淳子, 福地 成, 松浦 直己.	4. 巻 2020特別号
2. 論文標題 福島県における震災後の子どもたちのこころの支援「東日本大震災後に誕生した子どもたちとその母親に対する追跡研究」について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 精神神経学雑誌	6. 最初と最後の頁 S536
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 榎屋二郎	4. 巻 51(2)
2. 論文標題 【災害とメンタルヘルス】大規模災害における子どもたちのこころのケア	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 心と社会	6. 最初と最後の頁 18-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松本 和紀, 林 みづ穂, 小原 聡子, 福地 成, 原 敬造.	4. 巻 122(5)
2. 論文標題 【近年の自然災害から学ぶ精神保健医療の実際-身近な地域での災害発生に備えて-】東日本大震災を通して考える災害での支援と受援 宮城での経験から.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 精神神経学雑誌	6. 最初と最後の頁 386-393
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林 穂高, 福地 成.	4. 巻 60(1)
2. 論文標題 いま地域でできる災害準備とは何か 子どものためのサイコロジカル・ファースト・エイド (Psychological First Aid for Children)の研修の意義.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 小児の精神と神経	6. 最初と最後の頁 51-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24782/jsppn.60.1_51	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Naru Fukuchi .	4. 巻 18(1)
2. 論文標題 Psychoeducation for children in a psychiatric ward in the immediate aftermath of the 2011 earthquake and tsunami in Japan.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Intervention-Journal of Mental Health and Psychological Support in Conflict Affected Areas.	6. 最初と最後の頁 85-91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4103/INTV.INTV_39_19	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Watanabe Masahiro, Hikichi Hiroyuki, Fujiwara Takeo, Honda Yukiko, Yagi Junko, Homma Hiroaki, Mashiko Hirobumi, Nagao Keizo, Okuyama Makiko, Kawachi Ichiro	4. 巻 42
2. 論文標題 Disaster-related trauma and blood pressure among young children: a follow-up study after Great East Japan earthquake	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Hypertension Research	6. 最初と最後の頁 1215 ~ 1222
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4103/INTV.INTV_39_19	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Honda Yukiko, Fujiwara Takeo, Yagi Junko, Homma Hiroaki, Mashiko Hirobumi, Nagao Keizo, Okuyama Makiko, Ono-Kihara Masako, Kihara Masahiro	4. 巻 10
2. 論文標題 Long-Term Impact of Parental Post-Traumatic Stress Disorder Symptoms on Mental Health of Their Offspring After the Great East Japan Earthquake	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Frontiers in Psychiatry	6. 最初と最後の頁 496
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fpsy.2019.00496	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Miki Takahiro, Fujiwara Takeo, Yagi Junko, Homma Hiroaki, Mashiko Hirobumi, Nagao Keizo, Okuyama Makiko	4. 巻 10
2. 論文標題 Impact of Parenting Style on Clinically Significant Behavioral Problems Among Children Aged 4?11 Years Old After Disaster: A Follow-Up Study of the Great East Japan Earthquake	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Frontiers in Psychiatry	6. 最初と最後の頁 45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fpsy.2019.00045	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林 みずほ、福地 成、八木淳子、榎屋二郎	4. 巻 会議録
2. 論文標題 東日本大震災後の支援 被災後10年目を以て(会議録)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本児童青年精神医学会総会抄録集	6. 最初と最後の頁 np67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 八木 淳子	4. 巻 2019特別号
2. 論文標題 育てと育ちの精神医学～困難な育児・逆境における育ちの支えII～ 東日本大震災後に誕生した子どもとその家庭への縦断的支援より(第2報)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 精神神経学雑誌	6. 最初と最後の頁 S319
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 八木 淳子	4. 巻 17(1)
2. 論文標題 逆境体験が子どもの発達に及ぼす影響と回復への介入 東日本大震災被災地での7年間の診療と研究を通して見えること	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 トラウマティック・ストレス	6. 最初と最後の頁 3-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 八木 淳子	4. 巻 59(2)
2. 論文標題 【子どものトラウマ～再認識されるべき心の問題～(2)】大災害後中長期の子どものトラウマケア 児童精神科医療の立場からみえる現状と展望(解説/特集)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 小児の精神と神経	6. 最初と最後の頁 172-183
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 八木 淳子	4. 巻 59(2)
2. 論文標題 【子どものトラウマ～再認識されるべき心の問題～(2)】大災害後の子どものメンタルヘルス支援の多層的ニーズを考える(解説/特集)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 小児の精神と神経	6. 最初と最後の頁 155-159
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岩尾紅子、市来真彦、榎屋二郎、井上猛	4. 巻 2019特別号
2. 論文標題 成人の状態不安に対する小児期の両親の養育態度、対人関係敏感性、ライフイベントの相互作用の検討(会議録)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 精神神経学雑誌	6. 最初と最後の頁 S648
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福地 成	4. 巻 38(3)
2. 論文標題 緊急時のこどものこころの反応とその支援(会議録)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 蘇生	6. 最初と最後の頁 116
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林穂高、福地 成	4. 巻 28(3)
2. 論文標題 私たちはいま災害に備えて地域で何ができるか 子どものための心理的応急処置(Psychological First Aid for Children)研修の意義(会議録)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 子どもの心とからだ	6. 最初と最後の頁 332
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福地 成	4. 巻 51(3)
2. 論文標題 災害時の子どもへの支援 障害のある子どもたちに焦点をあてて 発達障害のある子ども達と避難所(会議録)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 脳と発達	6. 最初と最後の頁 204-205
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福地 成	4. 巻 59(2)
2. 論文標題 【子どものトラウマ~再認識されるべき心の問題~(2)】公衆衛生としての災害精神医学 みちのくこどもコホートからみえること(解説/特集)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 小児の精神と神経	6. 最初と最後の頁 160-165
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松本和紀、林 みず穂、小原聡子、福地 成、原 敬造	4. 巻 2019特別号
2. 論文標題 近年の自然災害から学ぶ精神保健医療支援の実際-身近な地域での災害発生に備えて- 東日本大震災を通して考える災害での支援と受援 宮城での経験から(会議録)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 精神神経学雑誌	6. 最初と最後の頁 S332
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計35件(うち招待講演 0件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 八木淳子
2. 発表標題 いじめと精神医学 いじめ被害者・いじめ加害者へのケア
3. 学会等名 第118回日本精神神経学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 八木淳子
2. 発表標題 新型コロナウイルス感染症拡大下における子どもと家族-精神医学に何ができるか COVID-19感染拡大下におけるトラウマに焦点を当てた親子へのケア
3. 学会等名 第118回日本精神神経学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 吉岡靖史, 山家健仁, 内出 希, 柿坂佳菜恵, 八木淳子
2. 発表標題 児童精神科病棟に入院した心的外傷後ストレス障害と発達障害の合併例に対しTF-CBTを実施した2症例の検討
3. 学会等名 第127回日本小児精神神経学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 内出 希, 山家健仁, 吉岡靖史, 柿坂佳菜恵, 千葉柗作, 八木淳子
2. 発表標題 東日本大震災後に被災地域に出生した子どもの自閉症特性と認知発達経過の関連についての検討
3. 学会等名 第127回日本小児精神神経学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 八木淳子
2. 発表標題 日常診療に生かす子どものトラウマの理解とケア
3. 学会等名 第63回日本児童青年精神医学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山家健仁, 吉岡靖史, 内出 希, 柿坂佳菜恵, 千葉柝作, 榎屋二郎, 福地 成, 松浦直己, 八木淳子
2. 発表標題 東日本大震災後の被災地域に出生した子どもの行動上の問題に関連する要因の検討 子どもの自閉症特性、親の精神疾患の有無および愛着スタイルに着目して
3. 学会等名 第63回日本児童青年精神医学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 福地成, 千葉柝作, 東海林渉, 内田知宏, 吉岡靖史, 八木淳子, 榎屋二郎, 松浦直己, 鈴木映二.
2. 発表標題 東日本大震災後に出産した母親のメンタルヘルスの問題の遷延に関連する要因の検討.
3. 学会等名 第19回日本うつ病学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 福地 成
2. 発表標題 見えない脅威に子どもたちはどう向き合うのか.
3. 学会等名 日本精神科診療所協会第28回学術研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 福地成, 赤坂美幸, 小林穂高.
2. 発表標題 緊急事態のときに子どもを支えるために～自然災害、コロナ禍から戦禍まで～. 災害対策セッション.
3. 学会等名 第40回日本小児心身医学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 松浦直己
2. 発表標題 知能とは？ギフテッドとは？
3. 学会等名 第63回日本児童青年精神医学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 前田 昌志, 吉川 雄一郎, 熊崎 博一, 松浦 直己 .
2. 発表標題 遠隔操作による学級集団への介入を通じた児童の対話ロボットに対する受容過程の調査 .
3. 学会等名 第63回日本児童青年精神医学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 松浦直己
2. 発表標題 平谷こども発達クリニックにおける発達性ディスレクシア（DD）の診断と支援（その9） .
3. 学会等名 第31回日本LD学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 八木淳子
2. 発表標題 トラウマの影響を受けて育つということ 被災地研究や臨床での出会いから .
3. 学会等名 第126回日本小児精神神経学会（大会長講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 八木淳子
2. 発表標題 被災地で育つということ～東日本大震災後10年間の臨床と研究からみえる子どもの育ち～「暮らしとともにある復興にむけて」.
3. 学会等名 第45回日本死の臨床研究会年次大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 八木淳子
2. 発表標題 被災地に生きる子どもの育ち（症例）被災当時乳児だった子どもの育ち。「東日本大震災から10年後の子どもたち 被災地でそだつということ」.
3. 学会等名 第20回日本トラウマティック・ストレス学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 八木淳子
2. 発表標題 発達障害の二次的障害としての非行を考える アセスメント, 予防, 支援 . 少年刑務所の入所者が教えてくれるもの 発達とトラウマの視点から .
3. 学会等名 第125回日本小児精神神経学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 柿塚佳菜恵, 山家健仁, 吉岡靖史, 内出 希, 松尾奈津美, 八木淳子, 榎屋二郎, 福地 成, 松浦直己
2. 発表標題 東日本大震災後に出産・育児を行った母親の愛着スタイルが子どもの問題行動に与える影響.
3. 学会等名 第126回日本小児精神神経学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 千葉柝作, 福地 成, 吉岡靖史, 八木淳子, 榎屋二郎, 松浦直己.
2. 発表標題 東日本大震災後に誕生した子どもとその家庭への縦断支援研究 保護者の精神健康と子どもの行動上の問題に関連する要因の解明 過去の不遇体験, 震災への主観的な被害感覚, 対人関係のスタイルに着目して.
3. 学会等名 第62回日本児童青年精神医学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 吉岡靖史, 八木淳子, 柿坂佳菜恵, 榎屋二郎, 福地 成, 松浦直己.
2. 発表標題 東日本大震災後1年間に被災地域に出生した子どもの自閉スペクトラム症の検討.
3. 学会等名 第62回日本児童青年精神医学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松尾奈津美, 八木淳子, 山家健仁, 吉岡靖史, 内出 希, 柿坂佳菜恵, 三浦光子, 小川香織, 久保崇人, 石川千穂, 響 江史子.
2. 発表標題 岩手医科大学附属病院児童精神科におけるトラウマフォーカスト認知行動療法施行36例の検討.
3. 学会等名 第62回日本児童青年精神医学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 八木淳子, 山家 健仁, 吉岡 靖史, 柿坂 佳菜恵.
2. 発表標題 東日本大震災後の母子のメンタルヘルス～「みちのくこどもコホート」から見える被災地の今～「みちのくこどもコホート (MiCCa GEJE)」研究の概要と進捗状況について.
3. 学会等名 第19回日本トラウマティック・ストレス学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 八木淳子, 榎屋二郎, 福地成, 松浦直己.
2. 発表標題 児童青年領域におけるレジストリの構築. 「みちのくこどもコホート」研究がめざすもの 東日本大震災被災地での長期的観察と支援の意義.
3. 学会等名 第61回日本児童青年精神医学会総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 吉岡靖史, 山家健仁, 内出 希, 柿坂佳菜恵, 藤原 碧, 松尾菜津美, 八木淳子.
2. 発表標題 東日本大震災後1年間に出生・育児を行った母親の自殺の危険性の検討.
3. 学会等名 第61回日本児童青年精神医学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 八木淳子.
2. 発表標題 逆境体験が子どもの発達に及ぼす影響と回復への介入～母子支援に生かすトラウマインフォームドケアの視点～.
3. 学会等名 岩手県立病院医学会分科会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 八木 淳子
2. 発表標題 子どもの発達とトラウマ～発達障害支援におけるもう一つの視点～.
3. 学会等名 第67回東北学校保健学会
4. 発表年 2019年

1 . 発表者名 Junko Yagi .
2 . 発表標題 Current situation and challenges , and future direction in the disaster areas after Great East JapanEarthquake (GEJE) - Multiple outcomes from a longitudinal study targetingchildren and families :The Impact of the 2011 Great East Japan Earthquake on childmental health and neurodevelopment .
3 . 学会等名 The Congress of European Society for Child and AdolescentPsychiatry (ESCAP)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Naomi Matsuura .
2 . 発表標題 Impact of tne Great East Japan Earthquake on childmental health and neurodevelopment .
3 . 学会等名 The Congress of European Society for Child and AdolescentPsychiatry (ESCAP)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Naru Fukuchi .
2 . 発表標題 Mental health of mothers who have children born after the 2011disaster .
3 . 学会等名 The Congress of European Society for Child and AdolescentPsychiatry (ESCAP)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Jiro Masuya .
2 . 発表標題 The evidence from a longitudinal study:MiCCa GEJE-study focusing oncognitive development, behavior, emotions among children.
3 . 学会等名 The Congress of European Society for Child and AdolescentPsychiatry (ESCAP)
4 . 発表年 2019年

1. 発表者名 八木 淳子
2. 発表標題 東日本大震災後に誕生した子どもの発達・メンタルヘルスと家族支援～8年後の被災地の現状「みちのくこどもコホート研究の概要」.
3. 学会等名 第18回日本トラウマティック・ストレス学会(シンポジウム)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松浦 直己
2. 発表標題 東日本大震災後に誕生した子どもの発達・メンタルヘルスと家族支援～8年後の被災地の現状「災害後の縦断的子どもと母親のメンタルヘルス研究～最新データ分析」
3. 学会等名 第18回日本トラウマティック・ストレス学会(シンポジウム)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 福地 成
2. 発表標題 東日本大震災後に誕生した子どもの発達・メンタルヘルスと家族支援～8年後の被災地の現状「母親のメンタルヘルスと地域支援の実際」
3. 学会等名 第18回日本トラウマティック・ストレス学会(シンポジウム)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 榎屋 二郎
2. 発表標題 東日本大震災後に誕生した子どもの発達・メンタルヘルスと家族支援～8年後の被災地の現状「みちのくこどもコホート」認知・行動・情緒の視点から」
3. 学会等名 第18回日本トラウマティック・ストレス学会(シンポジウム)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 八木 淳子
2. 発表標題 発達障害とトラウマ関連障害の架け橋 ～「見分ける」から「みたてる」へ～大災害後の長期経過で顕在化する子どものトラウマと発達に関する複雑な問題の実相.
3. 学会等名 第18回日本トラウマティック・ストレス学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 八木 淳子
2. 発表標題 育てと育ちの精神医学～困難な育児・逆境における育ちの支え ～東日本大震災後に誕生した子どもとその家庭への縦断的支援より(第2報).
3. 学会等名 第115回日本精神神経学会総会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計8件

1. 著者名 松浦直己, 三重県立かがやき特別支援学校あすなる分校.	4. 発行年 2022年
2. 出版社 中央法規出版	5. 総ページ数 168
3. 書名 気になる子どもが変わる16の鉄則	

1. 著者名 井筒 節, 堤敦 朗(編著) 福地 成(分著)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 金剛出版	5. 総ページ数 204
3. 書名 国際精神保健・ウェルビーイングガイドブック	

1. 著者名 亀岡智美・花房昌美(監訳)八木淳子(分担翻訳)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 金剛出版	5. 総ページ数 304
3. 書名 CPC-CBT親子複合型認知行動療法セラピストガイド	

1. 著者名 大江美佐里(編)八木淳子(分著)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 誠信書房	5. 総ページ数 171
3. 書名 トラウマの伝え方 事例でみる心理教育実践	

1. 著者名 飛鳥井 望(編) 八木淳子(分著)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 日本評論社	5. 総ページ数 208
3. 書名 複雑性PTSDの臨床実践ガイド ト라우マ焦点化治療の活用と工夫	

1. 著者名 前田正治, 松本和紀, 八木淳子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 日本評論社	5. 総ページ数 224
3. 書名 東日本大震災とこころのケア 被災地支援10年の軌跡 こころの科学Special Issue	

1. 著者名 亀岡智美, 飛鳥井 望, 八木淳子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 誠信書房	5. 総ページ数 206
3. 書名 子どものトラウマとPTSDの治療	

1. 著者名 松浦直己(単著)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 中央法規出版	5. 総ページ数 176
3. 書名 教室で出来る気になる子への認知行動療法 実践ワーク編	

〔産業財産権〕

〔その他〕

ホームページ http://www.miccageje.org/
--

6. 研究組織			
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	榑屋 二郎 (MASUYA Jiro) (70349504)	東京医科大学・医学部・准教授 (32645)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	福地 成 (FUKUCHI Naru) (50641958)	東北医科薬科大学・医学部・講師 (31305)	
研究分担者	松浦 直己 (MATSUURA Naomi) (20452518)	三重大学・教育学部・教授 (14101)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関